

平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 157人

② 数学 157人

③ 英語 157人

5 留意事項

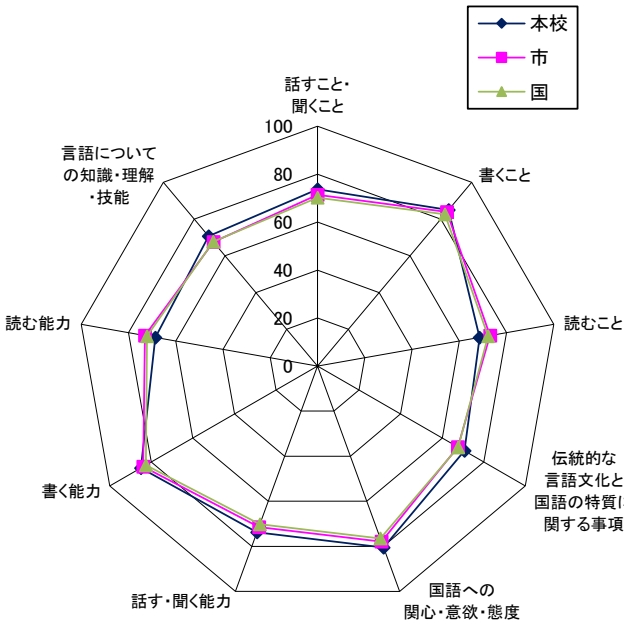
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.7	71.4	70.2
	書くこと	85.0	83.9	82.6
	読むこと	68.6	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.7	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	80.5	77.9	76.5
	話す・聞く能力	73.7	71.4	70.2
	書く能力	85.0	83.9	82.6
	読む能力	68.6	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	70.7	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

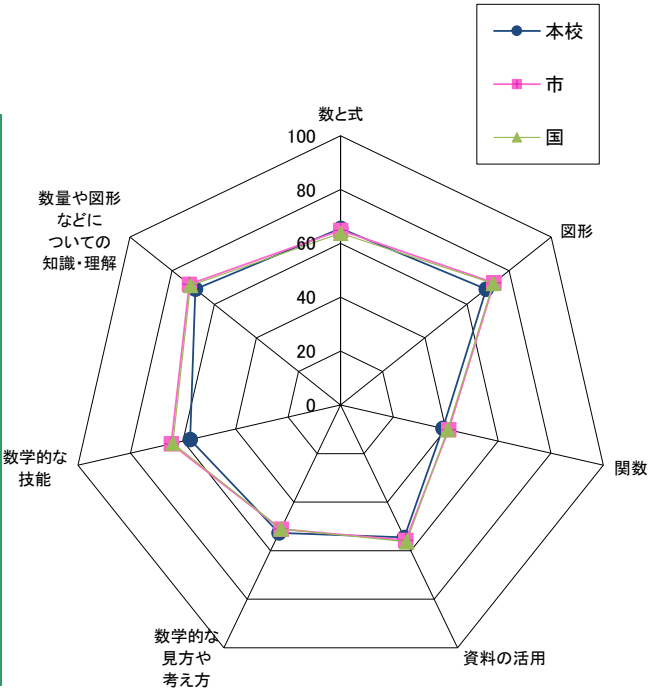
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率が国の平均より3.5ポイント、市の平均より2.3ポイント上回っている。 ○話し合いの話題や方向を捉える設問では、正答率が8割以上であった。 ●話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ問題では、正答率が6割程度にとどまった。	・話し合いを発展させる意見の出し方や、話し合いの方向性を正しく捉えるためのスキルなどを、話し合い活動を通して指導していく。 ・聞き手を意識して発表することなどの「話すこと」の指導を行う。
書くこと	4領域の平均正答率を見ると、「書くこと」が最も高い。 ○伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題では、国の平均より5.2ポイント、市の平均より3.6ポイント上回っている。 ●書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する設問では、国・市の平均より2ポイント下回っている。	・「書くこと」の単元以外でも、自分の考えを書く活動に取り組ませる機会を増やす。 ・体験文や意見文以外にも、文章を要約したり調べたことを紹介したりするような、様々な文章に取り組ませる。 ・書くときに、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を意識させる。
読むこと	領域の平均正答率が国の平均より3.6ポイント、市の平均より4.4ポイント下回っている。 ○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ問題では、正答率が9割を超えている。 ●文章の展開に即して情報を整理し内容を捉える問題では、正答率が6割に届かず、国・市の平均を下回っている。 ●文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つ問題では、正答率が6割に届かず、国・市の平均を下回っている。	・説明的文章の指導においては、文章構成を図式化して示すなどして、構成や段落どうしの関係を的確に捉えるための指導を重点的に行う。 ・文章に述べられている意見を理解し、明確な根拠を挙げて自分の意見を持つ練習を行う。 ・必要に応じてグループ活動を取り入れ、意見を交換しながら考えを深めていく指導を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の平均正答率が国の平均より3.0ポイント、市の平均より3.2ポイント上回っている。 ○封筒の書き方を理解して書く問題では、平均正答率が国の平均より8.8ポイント、市の平均より8.6ポイント上回っている。 ●語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する問題では、国・市の平均正答率をやや下回っている。	・話や文章の中での、語句の適切な活用の仕方について、書くことの指導と合わせて行う。 ・語彙を増やせるように、教科書の「広がる言葉」を使って指導する。

宇都宮市立一条中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	65.6	64.9	63.8
	図形	69.1	72.8	72.4
	関数	38.9	41.1	40.8
	資料の活用	54.5	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	52.7	51.1	51.0
	数学的な技能	57.3	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	69.0	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

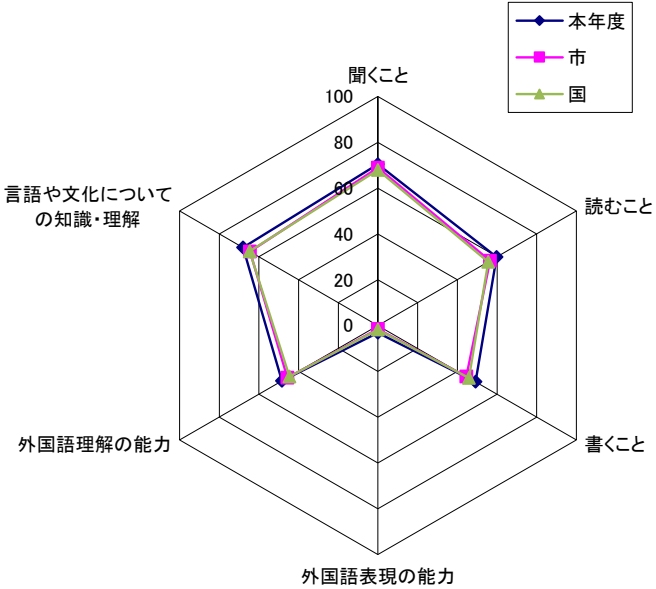
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の平均正答率を0.7ポイント上回っている。特に、与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的をとらえる問題では、全国の平均正答率を6.3ポイント上回っている。総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する問題では、正答率が70%を超えている。 ●簡単な連立二元一次方程式を解く問題では、県の平均正答率を3.0ポイント下回っている。	・連立二元一次方程式の解法で、加減法と代入法の違いや、使い分けなどを再確認させ、等式の性質を用いて適切な処理ができるようにする。また、計算で得られた結果について、たしかめをする習慣化を図る。
図形	●市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。特に証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかの問題では10.2ポイント、結論が成り立つための前提を考え、新たな事象を見出し、説明する問題では3.6ポイント全国の平均正答率を下回っている。 ○平行移動の意味を理解しているかの問題では、全国の平均正答率を1.8ポイント上回っている。	・視覚的にとらえやすくするために、図形の中に印をつけるなどして区別し、考えやすく工夫した板書をする。黒板に書かれた事柄をノートに写し、例題に沿った問題を繰り返し解く。 ・条件に合わせて図形をかくことを習慣づけて、図形から得られる情報を的確に読み取り、問題解決の糸口を見いだせるようにする。 ・問題に対して、筋道を立てて説明することをパターン化して取り組めるよう繰り返し指導する。
関数	●市の平均正答率を2.2ポイント下回っている。特に事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では7.9ポイント、比例式の表からxとyの関係を式で表す問題では2.4ポイント全国の平均正答率を下回っている。 ○グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を事象に即して解釈する問題では、全国の平均正答率を4.5ポイント上回っている。	・ともなって変わる量の変化の様子を、表やグラフの中でとらえられるように色分けしたり、印をつけたりして、考え易い板書をする。黒板に書かれた事柄をノートに写し、例題に沿った問題を繰り返し解く。 ・式・表・グラフの関係を結びつけて考えられるようにしたり、視覚的にとらえられるようにしたりして、繰り返し指導する。
資料の活用	●市の平均正答率を1.2ポイント下回っている。簡単な場合について確率を求める問題では12.3ポイント、資料を整理した表から最頻値を読み取る問題では3.8ポイント全国の平均正答率を下回っている。 ○問題を解決するためにどのような代表値を用いるべきかを判断する問題では6.9ポイント、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では1.9ポイント全国の平均正答率を上回っている。	・確率の考え方について、樹形図の重要性を再確認させ基本的な問題を繰り返し解く。 ・平均値、中央値、最頻値などの代表値について、意味を理解したり、値を求めたりすることに加え、それぞれの代表値を具体的な場面でのどのように活用するかを考えさせる授業を行う。

宇都宮市立一条中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	70.4	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	59.8	56.5	55.6
	書くこと	49.2	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	3.2	1.5	1.8
	外国語理解の能力	48.4	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	68.0	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は全国・県をわずかに上回っている。 ○まとものある英文を聞く問題でも約8割の生徒が正しく情報を理解することができている。教科書の内容をまずは聞き取る機会を設定してきた成果であると考えられる。 ●聞き取った情報から自分の意見を伝える設問では、4割の生徒が無回答であった。	・今後も、教科書のリスニングや単元ごとのリスニングテストを通して、英語を聞き理解する活動を継続していく。さらに、聞き取ったことについて自分の意見を伝える機会を増やしていく。 ・ALTとの授業を通して、一方的ではなく対話活動の場を多く設定していく。
話すこと		
読むこと	平均正答率は、県・全国とともに上回っている。設問別でもすべてにおいて上回っている。 ○日常的话题についての設問に対する正答率が高い。授業の中で生徒が身近に英語を使える場面を設定してきた成果であると考えられる。 ●動物についての説明文や環境問題についての説明文に対する正答率が低い。	・今後も教科書の読み物資料教材を使って、和訳ではなく内容の確認に重点を置いた活動をしていく。 ・内容を把握するだけでなく、その背景にあることや自分の意見を伝える場面も多く設定していく。
書くこと	平均正答率は、県・全国とともに上回っている。設問別でもすべてにおいて県を上回っている。 ○接続詞を適切に使うことができている。与えられた条件で書く意欲が高い。 ●説明文を書いたり、自分の意見を書いたりする設問の正答率は低い。語数の条件を満たせない生徒が多い。	・今後も場面や条件を設定して自己表現できる活動を充実させる。 ・自分の意見を述べたり理由を伝えたりする活動を設定して、まとものある文章を書く機会を増やしていく。

宇都宮市立一条中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対する本校の肯定割合は、いずれも県及び全国の肯定割合を上回っており、基本的生活習慣が身についている生徒が多いと考えられる。		
○「家の人と学校での出来事について話をしますか」の質問に対して、県及び全国の肯定的割合を上回っている。		
○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して肯定的に回答した本校生徒の割合は80.9%で、県平均を2.5ポイント、全国平均を6.8ポイント上回っている。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、本校の肯定的割合は89.8%で、県平均を3.2ポイント、全国平均を8.3ポイント上回っている。今後も、生徒のよいところを認め、ほめることにより、自己肯定感を高める取組を継続したい。		
○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対して肯定的回答は80.9%で、県平均を5.3ポイント、全国平均を10.6ポイント上回っている。		
○「人が困っているとき、は、進んで助けていますか」の質問に対して、肯定的回答は93.0%であり、県平均を2.9ポイント、全国平均を7.1ポイント上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して肯定的に回答した生徒の割合は、97.4%と高い結果である。本校ではボランティア活動がさかんであり、社会貢献の意識の高揚につながっていると思われる。		
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、98.7%の生徒が肯定的に回答している。これからも学校体制での取組のみならず、小中の連携や、家庭、地域社会との連携をとおして、いじめのない学校、地域社会を目指したい。		
○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に対する肯定割合は73.2%で、県平均を15.2ポイント、全国平均を22.8ポイント上回っている。3年生として自覚を持って計画的に家庭学習に取り組む姿勢が見られる。		
○「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか」「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で解答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」の質問に対して、いずれも県平均及び全国平均よりも高い数字となっている。今後も言語活動の充実を意識した取組を継続したい。		
●「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に対して、本校の肯定割合は県平均及び全国平均を下回っている。分かる授業の工夫や振り返りの時間の確保など学習内容の定着のために取り組みたい。		
●「解答時間は十分でしたか」の質問に対し、肯定的な割合が県平均及び全国平均を下回っている。授業の中で時間を意識して問題を解くなど、学習指導の工夫に取り組みたい。		

宇都宮市立一条中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習の工夫を行う。	○教科ごとに工夫をし、考えを広げたり深めたりするための話し合いの機会を積極的に授業に取り入れる。	「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対する肯定割合は77.7%で、県の肯定割合とほぼ同じである。しかし、授業に参加するすべての生徒が目的をもって話し合いに参加できるように、話し合いの仕方について更に改善を図る必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に対する肯定割合が低く、県平均を8.6ポイント、全国平均を5.0ポイント下回っている。	○効果的な授業の振り返りを行う。	○「まとめ・振り返り」を意識した授業づくりを行う。